

スカッション大会

実施報告

参加者同士が学び合う、世界をより良くしていくためのキャリアパス

一 課題を受け止め、引き受け、共に行動する社会への変革を目指して

二

2011. 11. 12(土)

実施スケジュール

○第一部

14:30 ディスカッション大体会開会

14:35 キーノートプレゼンテーション(今回のイベントの問題意識をプレゼン)

15:00 ディスカッション

- 1 10年前の自分がタイムスリップして将来のことについてアドバイスを求めてやってきたら、どんなアドバイスをしますか？
- 2 社会を良くするために、あなたがこれまでに行った一番大きな活動や行動、決断は何ですか。またその結果、得られたこと、気づいたことは何ですか。

(良い経験が思いつかない場合)

- ②' 社会を良くするために、あなたが今後の人生を賭して行いたい活動は何ですか。また、そう考える理由は何ですか。

17:00 発表

各グループで発見された気づきを全体で共有します。

17:45 ディスカッション大会閉会

○第二部

18:00~ 懇親会開会

20:00~ 懇親会閉会

代表池田の海外赴任後初のイベントとなり、ディスカッションの方向性、参加者の多様性、これまでのクロスオーバーを進化させることができるか、不安ばかりが先行した第13回ディスカッション大会でしたが、参加者みなさんに積極的な議論を頂き、多くの方に、新たな気付きと満足感を持って帰って頂けたのではないかと思います。

最後まで活発な意見を頂いた皆さん、ありがとうございました！！

ディスカッション大会冒頭のキーノートプレゼンテーションでは、クロスオーバーの10年の歩みを振り返りながら、クロスオーバーが10年で充実した変化を遂げたことに触れ、「今の自分を形作るこれまでの経過を振り返り、今後の自分のあり方を考え」、ディスカッションというクロスオーバーの場を活用して、「自分一人で考えず、みんなのカガミで各自を写す」ことに挑戦できるような場を用意したことを紹介しました。

さらに、「志高い人たちが、業種や立場の垣根を越えて集い、議論し、気付きを得て、自らの成長の糧とする」というクロスオーバー、ディスカッション大会の醍醐味を活かせるようなテーマ設定にしたことを紹介しました。

今回のディスカッション大会は、個別の分野は設けず、皆さんの人生観に訴えかけるような漠然としたテーマ設定としました。始めて参加される方には戸惑いもあったかと思いますが、世代横断的、分野横断的な議論を頂くために、できるだけバイアスのかからない、参加者の個性がぶつかり合う議論になればと考えました。そして、参加者同士が前向きな議論をし、将来を考える議論に誘導できるように、これまでのディスカッション大会とは趣を変えて、意図的に学生の参加者を多くしました。

結果として、グループディスカッション、その後のグループ別のプレゼンテーション、要所要所で、学生ならではの視点が披露され、社会人が学生に何ができるか、ではなく、世代を超えた気づきを得て、互いに今後の社会への関わり方を考えてもらえるような会になったのではないかと考えています。

各グループでの議論の内容は、各ファシリテーターの報告に委ねますが、是非一度、他のグループの議論も振り返り、“気づき”を倍増させてください。

告

ファシリテーターより(抜粋)

報告者:東慶一

本グループでは、公務員の方2名、民間企業の方3名、学生の方1名でディスカッションを行った。年齢構成は20代前半から30代後半と、比較的若い方が多いグループであった。

ディスカッションでは、

(1)10年前の自分に対して、どんなアドバイスをするか?そして、そのアドバイスで、10年前の自分は行動を起こしてくれるか?

(2)社会をより良くするために今まで行ってきた活動は何か?または、社会をより良くするためにあなたが今後の人生を賭し行いたい活動は?

の2つを質問させていただいた。(1)では、視野を広げろ、もっと悩め、海外に行け、日本の文化について語れるようになれ等の意見を聞くことができた。参加者の多くは、述べていただいたアドバイスを既に実践しており、気が付くのが遅かったとおっしゃっていた。そして、(2)であるが、

- ・ 日々生活が大きく変化しているが、ものを使っている人間は変わらない。人間が変わるための仕組みを構築したくて、会社を作った。
- ・ 国際交流の団体に関わっていた。さらに、現在は国際交流をどのようにしたら活性化できるかを話し合っている。
- ・ 異業種交流会など、多くの人が出会える場を設けている。

などの意見が出た。また、(2)のテーマで議論している中で、「より良い社会とは?」という部分が論点となった。より良い社会にするためには人が変わらなくてはならないという意見から、人を変えるための行動とは?ということについて議論した。結論は出なかったが、ある参加者から、社会をより良くするために皆ができる行動は「結婚」であるという意見が出た。結婚することで結婚相手を幸せにし、少なからず経済にも貢献できる。身近で誰でもできる事だが、とても重要な考え方だと思った。



報告者: 田中里沙

私のグループでは、今回の2つのテーマを考えるに当たって、時系列に沿って自分の成長を振り返り考えるという観点から、ざっくりばらんに、下記の3つの軸となるクエスチョンについて意見交換を行った。

- ① 10年前の自分との社会の関わりは？
- ② 10年前から今の自分をみると、どう変わったか。その変化の節目となった出来事は何か。
- ③ 10年後の自分は、社会をよりよくするために、どう社会に関わりたいか。

この①～③をディスカッションしている中で、グループ内では、①の問いでは学生だったので社会と関わりは全くなかったという方が多かったところ。

その方々にとって、②の問いでは、10年経って今 Crossover21 に参加しているのは、どうい変化があつて社会と関わっているからか？との問いが生まれた。

この問いは意見交換の中で生まれてきたもので、参加者にとっての Crossover21 とのつながりについての意見を交換できた。やはり、今自分が所属しているコミュニティだけでなく、幅広い分野の人と出会い意見を交換し、自分の視野を広げ新たな気づきを発見していきたい、という意見が多かったところ。

Crossover21 では、そういったニーズが満たせているか、今後はどういった付加価値を生み出していけるのだろうか。今一度深く考えるきっかけとなった意見交換であった。

そして、③の問いでは、個々人としてはそれぞれの専門に沿ったアプローチや、その個々人の力を活かすマネージャーとしてのリーダーに求められる資質などに議論が及んだ。それは、1人ではなく、いろいろなパワーを持った個々人の力を活かす巻き込み力があるリーダーシップではないか、との意見には非常に共感したところ。

本グループでは大学生から年代が異なる様々な業種の社会人が集まっていたものの、一定のまとまりがある議論が生まれたところ。一方で、今回は抽象的なテーマであったため、議論の解を1つに設定はしていなかったことから、幅広い意見・気づきが生まれ、非常に刺激ある議論となったと思われる。

このような気づきを今後の個々人の生活に活かしつつ、Crossover21 も成長していきたいと思う。



報告者:大谷竜

本グループでは、ファシリテーターも含めて合計9名のグループ

で議論が行われた。年代は10代から40代と幅広く、また参加者も政治家秘書から官僚、商社マン、学生、また外国の方もおられるなど、クロスオーバーならではの多様性が遺憾なく発揮された議論が行われた。

こうした多様性から様々な議論が百花繚乱のごとく展開されたが、一方でなかなか議論が一つの方向性を見いだせないもどかさがあった。今回、冒頭の田中宗介副代表のプレゼンで示された新しいドクトリンである「ニュー3K(相手の話をよく”聞く”こと、”気づき”を与え合うこと、”行動”につなげること)」に基づく議論を展開しようと試みたが、参加者の興味の対象や、バックグラウンドの多様性のために議論は発散し、なかなか共通点を見いだすことができなかった。

例えば議論の前提となる、前知識などの理解の共有基盤を作る必要があるということがあった。例として、公共政策の概念である PPP (Public Private Partnership) は、学生さんにとっては聞き慣れないものであったため、なにげなく PPP という単語を使った発言者にとっては改めて説明をする必要があった。興味深いことに、いざそうした説明を行っても意外に万人を納得させるような説明が難しいことであり、改めて Crossover21 の掲げる「多様な人財の協働」という理念に対して、現実世界での実践の困難さを示すこととなった(但しこれはこれで一つの大きな気づきとなった)。

そんな中、グループで大きな気づきとして共有されたものとして、グループの学生さんが関わっている「拡大教科書」があった。拡大教科書とは、視力の弱い生徒のために字を大きくした教科書のことで、その学生さんは「拡大教科書」の作成にボランティアとして関わっているとのこと。グループの他の全員にとって意外なことに、こうした拡大教科書の作成は、コストの問題から文部科学省ではなく、ボランティアの無償の力によって作成されているとのことで、文部科学省から消耗品代等最低限の援助を受けつつも、拡大教科書を利用する生徒にとっては非常に貴重な教科書を手弁当で作っている姿に、グループ全員が大きな感銘を受けた。

我々大人は社会を知っているようで如何に知らないことが多いか、とかく自分たちの見えている範囲だけで判断しがちか、ということが痛感させられるとともに、またそんな状況をよりよくしていくためには何ができるのか、全員が議論に多いに盛り上がったこの話題は、全員一致でグループ発表の話題として選ばれ、学生さんの素晴らしいプレゼンとともに、グループ発表にて紹介された。こうした気づきが得られるのは、まさに Crossover21 ならではの醍醐味であったと言えよう。



報告者: 田中宗介

本グループは、10代の学生から50代の技術者まで、7名で、

文理、官民間わず、多様な議論が交わされた。

自己紹介を兼ねて、ここ10年、各自がどのような環境で、何に取組、どんな変化があったかを共有し、今の自分がやっていることを紹介した。

異分野への転職を繰り返す中で、ステップアップし、新たな知見、技術、そして生きることの自信を得た方。短大、専門学校、大学、大学院と学ぶことを通じて、自己研鑽と人との関わりについて考え、今は教育者となっている方。小学生から大学生へと進学する中で、視野が広がり、学生版クロスオーバーとも言えるべきイベントを立ち上げ、多様な価値観と出会う楽しさ、意義を感じている方。などなど、経験や考え方は違うものの、皆、前向きで、達成感とこれからの希望を語る方が多いように感じた。

その後、「10年前の自分がアドバイスを求めたら」というポイントだけに議論を絞らず、「逆に10年後に向けて何がアドバイスできるか」も考えたところ、震災と原発事故のリスクから何を学び、そしてこの惨事を繰り返さないために、どういった社会が望まれるのかに議論が移り、「地域密着型の循環型経済になる」「時間、時代が流れている時に、異なる考え方をどう受け止めるか」「賢者は歴史から学び、愚者は経験から学ぶ」といった視点から各自の想いをぶつけられた。

議論を始める前は、学生の参加者に10年前のことを聞いても仕方ないと思っていたが、実際は、「10年前の自分には、独りよがり、自分の考えにバイアスを持たず、他人の意見をもっと聞いてほしい」という示唆に富む意見が出され、自分自身はっとさせられた。

初参加者、初対面の人ばかりでの議論となったが、どこまで掘り下げて議論すべきか、学生の参加者にどうやって社会人のキャリアパスを伝えるか、多様性が生み出す議論の仕方そのものに考えさせられるディスカッションとなったと思う。